



# 世

界を旅する観光客の数は年間13億人を超えている。今後も増え続けると予想され、いまや旅行・観光産業は世界のGDPの約10パーセントに貢献する巨大産業となっている。観光の経済効果はなぜ大きいのか？

JTB総合研究所の首席研究理事でJICA技術専門委員も務める高松正人さんは、「観光には人を巻き込む力がある」と話す。たとえば、観光客はホテルに宿泊し、レストランや商店、観光施設でお金を使う。そこには働く人が大勢いる。食材は地元から調達することが多いため、農家や漁師の手が必要になる。ホテルのショップで販売される民芸品は、品質の高さを求められ、おのずと職人のスキルが向上する。こうした観光産業には、多くの人が関わることになる。

「旅行者が旅先で1000ドルを使うと、そのお金は地域内の人々をめぐりめぐって最終的には250ドル消費されるような波及効果を生み出します。観光とは波及効果の大きいビジネスです」

そして、雇用を生むということは、職を求めて故郷を離れてしまった若者たちが地元に戻る契機となる。町や村は観光振興によって高齢化や過疎化から抜け出し、コミュニティの維持を続けていくことができる。

「JICAの専門家として訪れたインド北東部のシッキム州では、エコツーリズムの開発によって村落に若者が帰ってきました。標高2500メートル超の何も無い村落に、です。観光が地域に与えるインパクトは非常に大きいものがあります」

## 特集 観光と開発

# 恵みをもたらず旅に出る

観光の開発は、地域に雇用を生み出し、町や村にうるおいをもたらす。

JICAは付加価値のある持続的な観光の開発をめざし、途上国とともに活動をしている。

取材協力●JTB総合研究所 首席研究理事 高松正人  
文●田中弾(編集部)

### 日常にあるものを磨き上げていく

JICAの観光にかかる協力開発はこれまでさまざまな国で進められている。どのような国からどのような人を呼ぶかターゲットを決め、彼らが旅先で何を求めているかを探り、自然や歴史的遺構、その土地の文化や食などの観光資源をもとに、現地の人と協力して観光客を引きつける観光商品を開発する。JICAの協力は道路、上下水道、博物館などの観光施設といったインフラの整備から、自然・文化・歴史の魅力を味わう観光商品の企画・開発やプロモーションなど多岐にわたっている。そして、現地の地域社会の生活と観光が調和するように、環境を破壊せず、土地固有の文化を尊重し、経済的にも自立できるという三つの面での持続可能なツーリズムの実現も後押ししている。

また、最近の観光トレンドが体験型にシフトしていることから、その変化にも柔軟に対応している。「体験型とは、その地域ならではの日常生活を体験できる観光のことです。インドネシアのバリ島には、山間の田園地帯を走るサイクリングツアーがあります。そこで出合えるのが稲作の三期作、四期作です。田植えと稲刈りが同時に行われている光景を体験できま

す。ツアーの最後に農家のおかみさんと現地の食材&スパイスを使ってクッキングをします。ここでしか体験できない特別な時間は強心に残るものとなり、旅の満足度を高めます」

観光は、世界中の地域と競争する産業であり、ノウハウや資金力の少ない途上国は不利になりやすい。しかし、そこでしか体験できない「オンリーワン」を探り当て、観光の魅力としてアピールすることで競争力を高めることはできる。「ただ、旅行者のニーズに合わせてプレゼンテーションは必要です。クッキングのプログラムであれば衛生的なキッチンと清潔な食器を用意するなど、旅行者が抵抗なく受け入れられる付加価値をつけることが大切です」

ちなみに昨年、WTTTC(世界旅行ツーリズム協議会)と国際平和研究所が、共同調査による観光と平和のレポートを発表した。そこには、観光開発が動き出すと雇用が生まれ、貧困層に所得が回り、格差が減少して生活水準の底上げが図られるため、国の平和の指標レベルが高くなると書かれている。「『平和だと観光が成り立つ』ではなく『観光が平和を作り出す』ということです。興味深い内容です」

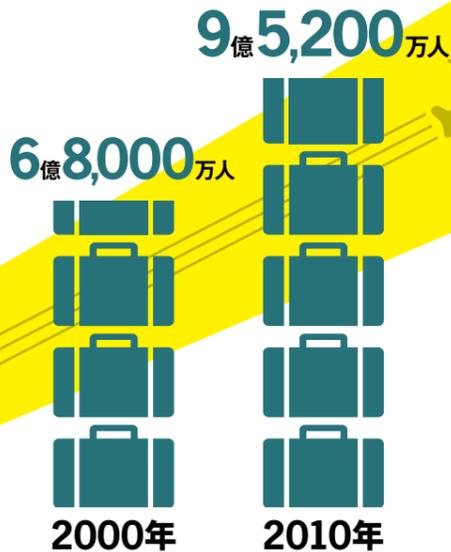
観光開発は、観光客にとっても地元の人にとっても喜びを生み出すものなのである。



# 13億人以上が 世界を観光する時代

世界の海外旅行者数\*1はここ20年の間、ほぼ順調に右肩上がりで伸びている。一時減少した年(2003年のSARS\*2とイラク戦争、2008年の世界金融危機)があったが、それ以外は年々4~5%ずつ成長を続けて2017年は13億人を超えた。2030年には18億人に達するという予想もある。

= 2億人



\*1 海外旅行者数  
UNWTO(国連世界観光機関)発表による、1年間あたりの国際観光客の到着数(宿泊を伴う)、ビジネス他も含む  
\*2 SARS  
重症急性呼吸器症候群。中国の広東省で発生し、インド以南のアジアやカナダを中心に感染が拡大。32の国と地域にわたり8,000人を超える症例が報告された(厚生労働省検疫所FORTH)  
出典: World Tourism Organization (UNWTO) © 法務省入国管理局「日本人出国者数」、日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数」の資料をもとに作成

18億人に達するという予想も

2017年の日本人の海外旅行者数は  
**1,789万人**  
訪日外国人旅行者数は  
**2,869万人**  
\*ビジネス他も含む

多くの人が移動し、多くの人がお金を使う観光は、世界の経済活動に大きな影響をおよぼしている。一大産業に成長した観光をデータで見よう。

# 観光の今を知る

## 今注目の体験型観光!

●体験型の観光とは!!

近年、その土地でしか体験できない体験型の観光が盛り上がっていて、観光振興を進める国や地域では、さまざまな趣向を凝らした体験型プログラムが充実してきている。旅の楽しみがますます広がっている。



## 世界の雇用に占める割合

旅行・観光産業は世界でも有数の雇用創出産業の一つ。1億1,800万人以上の人々が直接雇用されていて、これは全雇用の3.8%にあたる。間接的および誘発的な影響\*3を含めると3億1,300万人以上になり、世界の雇用の9.9%になる。10人に1人が旅行・観光に関わる職業に就いている。

世界の雇用の **9.9%** = **10人に1人**が旅行・観光に関わる職業に就いている

出典:「世界旅行ツーリズム協議会:旅行・観光:世界における経済的影響と課題2018-2018年3月。全著作権所有」をもとに作成

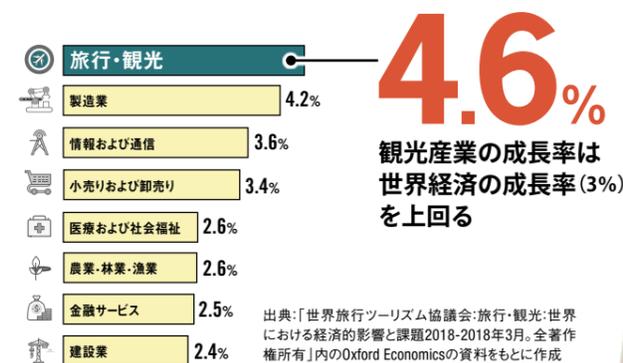
世界のGDPの **10.4%**に相当 **10.4%**

旅行・観光産業が世界のGDPに占める直接貢献の割合は3.2%。間接的および誘発的な影響\*3を含めると10.4%にもなる。

出典:「世界旅行ツーリズム協議会:旅行・観光:世界における経済的影響と課題2018-2018年3月。全著作権所有」をもとに作成

## 世界の経済成長をけん引する

2017年の旅行・観光産業の成長率は、世界経済の成長率3%を上回る4.6%を記録している。他分野の主要産業と比べると、製造業は4.2%と急成長しているが、それ以外は2.0~3.0%にとどまる。旅行・観光産業の成長率は非常に高い。



**4.6%**  
観光産業の成長率は世界経済の成長率(3%)を上回る

出典:「世界旅行ツーリズム協議会:旅行・観光:世界における経済的影響と課題2018-2018年3月。全著作権所有」内のOxford Economicsの資料をもとに作成



教えてくれた人  
JTB総合研究所 上席研究理事  
高松正人さん

業界歴36年の旅行・観光コンサルタント。WITC(世界旅行ツーリズム協議会)、UNWTO(国連世界観光機関)等の国際機関のアドバイザーをはじめ、JICAの技術専門員としても活動し、観光分野のJICA青年海外協力隊の支援にも当たる。日本における観光危機管理の第一人者としても知られている

\*3 間接的および誘発的な影響

- 間接的  
以下3つの要因を持つGDPと雇用への貢献を指す  
●宿泊施設や旅客輸送機器、特定の観光目的のレストランやレジャー施設など特定の観光資源に関する他の業種が費やす投資など  
●観光振興、旅行者情報サービス、行政サービス、その他の公共サービスなど  
●旅行・観光産業内のさまざまな職種による直接的な国内の財やサービスの購入
- 誘発的  
旅行・観光産業によって直接的または間接的に雇用されている者による支出のGDPと雇用に関する幅広い貢献